

斐伊川・神戸川治水事業の推進について

【国土交通省】

提案・要望の内容

本県百年の大計である斐伊川・神戸川治水事業を推進すること。

大橋川改修及び宍道湖・中海湖岸堤防の整備促進

- ・市街地整備と併せた大橋川改修
- ・環境・景観に配慮した事業の取組
- ・下流部中海地域への理解促進

ダム建設の促進

- ・志津見ダム
- ・尾原ダム

斐伊川放水路建設の促進

【現状と課題】

平成18年7月豪雨：大橋川が氾濫、松江市街地が浸水

大橋川改修について、早期整備の必要性を再認識

- ・平成18年7月豪雨（16日～19日）で、斐伊川流域での総雨量378mmとなり昭和47年7月豪雨（538mm）以来34年ぶりの降雨量を記録
- ・大橋川水位は1.96m（S47.7：2.36m）に上昇、松江市街地は2日間にわたり面積7.7ha、家屋1,740戸が浸水する被害が発生
- ・すでに整備された斐伊川本川、宍道湖西部護岸や神戸川放水路築堤部分では、洪水や浸水被害が大きく軽減
- ・斐伊川神戸川治水事業3点セットが完成していた場合、大橋川水位が約0.6m低下することが期待され、松江市街地における浸水被害は防ぐことができたとの試算

大橋川改修は、背後の市街地と一体となった事業推進が不可欠であり、従来の治水事業制度の弾力的かつ柔軟な運用や、河川空間を活用したまちづくりや景観形成に資する新たな事業の導入が必要である。

国際文化観光都市松江市の発展につながる環境・景観に配慮した河川事業の実施と下流部中海地域住民への理解促進、中海護岸整備の促進も必要である。

【本県の取組状況・方針】

ダム、放水路は事業進捗に併せ、関係市町の住民と一体となった地域活性化に取り組んでいる。

- ・尾原ダム・・・「地域に開かれたダム整備」
- ・放水路・・・「菌の長浜地域整備」

合意形成への関与、事業促進

大橋川改修は、松江市中心市街地に影響があるため、国及び松江市と一体となり「大橋川周辺まちづくり検討委員会」・「景観専門委員会」を設置し、治水と環境とまちづくりが調和した大橋川改修の実現に向け取り組んでいる。

【提案・要望の効果】

県都松江市を含む県東部地域の水害や濁水を防止し、県民の生命・財産を守り安全かつ安心して暮らせる県土を築くことが出来る。

大橋川改修の促進により松江市中心市街地の防災機能が大きく向上するとともに、大橋川を活用したまちづくりが進展する。

斐伊川・神戸川治水事業



・上流部の2つのダム、中流部の放水路は、順調に進捗中

H18.7.19 JR松江駅前
浸水深 0.5m



志津見ダム・尾原ダム 平成22年度末 完成
 斐伊川放水路 平成20年代前半 完成予定

・下流部の大橋川改修の早期着工

大橋川の現況



H18.7.19 大橋川右岸
水位 1.96m